

不登校等対策支援事業「かいつか SMILEプラン ～ すべての子どもたちの笑顔のために ～」

Support (支える) Motivation (やる気) Independence (自立) Learning (学び) Empowerment (力づけ)

貝塚市における現在の状況

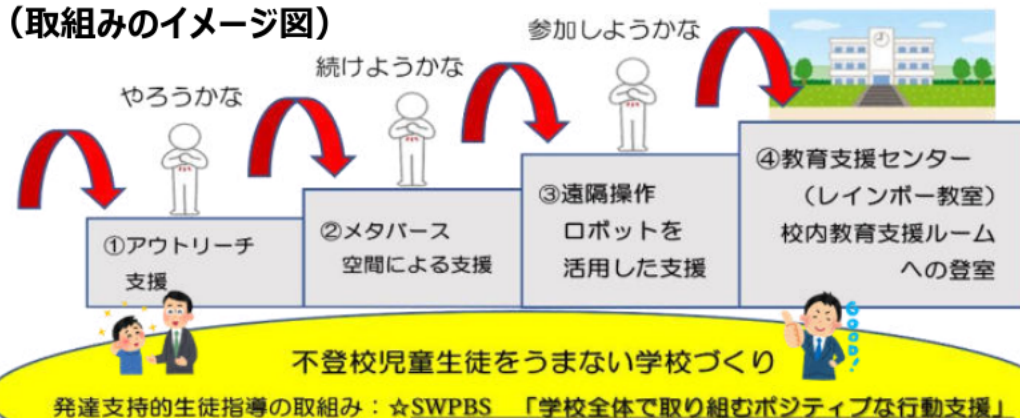
近年、不登校や長期欠席者の増加が深刻な問題となる中、本市でも同様に、不登校児童生徒数が増加するなど、課題は大きい。中でも、SCやSSW等の専門家や専門機関とつながっていない児童生徒が約4割に達しており、教育支援センターや校内教育支援ルームに通えている児童生徒も一部に限られる。

2023年3月に文部科学省により取りまとめられた「COCOLOプラン」にもあるように、不登校により学びにアクセスできない児童生徒をゼロにすることをめざし、本市においても、教育支援センターや校内教育支援ルームの設置に留まらず、アウトリーチ支援やメタバースによるオンライン支援など、児童生徒一人ひとりの状況に応じた対策を講じる必要がある。

以上の背景から本事業を立ち上げ、以下の施策を講じることによって、課題の解決を図っていきたいと考えている。



(取組みのイメージ図)



ゴール

すべての児童生徒が安心して学べる環境を整え、不登校によって学びにアクセスできない子どもをゼロにする。

令和7年度に必要な取組み

児童生徒一人ひとりの状況に合わせた施策を行い、課題の解決をめざす。

⇒個別のニーズに対応しながら適切な支援を行うため、不登校支援として次の4つの施策を推進する。

＜具体的な取組み＞

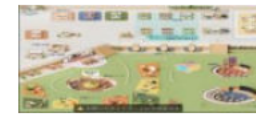
①専門家を活用したアウトリーチ支援の導入

→支援につながっていない不登校児童生徒の家庭に訪問したり、電話やWEBを使って面談したりすることによって、メタバースによるオンライン支援や教育支援センター等への入室など、一人ひとりに応じた対応方法を助言する。



②メタバースによるオンライン支援の導入

→民間業者に委託して、教育支援センター等に登室できない児童生徒を対象にメタバース空間を提供し、その中で他者との交流機会を創出したり、学習支援を行ったりする。



③教育支援センター(レインボー教室)における支援の充実

(1) 遠隔操作ロボットを活用した登室システムの導入

→遠隔操作ロボットを設置し、メタバース空間でのアバター同士の交流から、対人での交流への移行を図る。



(2) 登室による支援の充実

→ホースセラピーおよび農業体験の実施による自然体験活動の充実
仕事体験の実施によるキャリア教育の推進



④校内教育支援員の配置による校内教育支援ルームの設置促進

→校内教育支援員等を配置することにより、校内教育支援ルームの設置を促進し、不登校傾向にある児童生徒の支援体制を強化するとともに、新規不登校者数の抑制を図る。
→遠隔操作ロボットを設置し、自宅からでも教員や支援員と対話したり、学習したりできる環境を整える。



※児童・生徒の定期健康診断の未受診者への対応

→小・中学校の児童・生徒等が、検診実施日に欠席していた等の理由により、在籍校での定期健康診断を受診できなかった場合、学校医の診療所等で行う健康診断を受けることができる